

ありあけ みね ます い やま
有明の峰 増位山

増位山には、平安時代に日本を代表する歌人（和歌（短歌）をよむ人）がたくさん訪れました。和歌の中では増位山のことを「有明の峰」とよびました。在原業平や西行法師が作った和歌が残っています。昔は、ここにお城がありました。



行った日



さ えきじんじや
佐伯神社

まつられているのは、白国のご先祖さまである「稻背入彦命」のひ孫にあたる阿良津命です。阿良津命は、播磨地方で初めて国造という役人になりました。そして佐伯直という名字をもらいました。

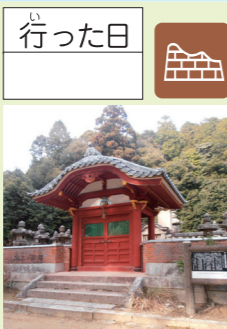


行った日



さかきばらただつく ほしよ からもん
神原忠次墓所の唐門

姫路城の殿さま神原忠次のお墓に享保16年（1731）に建てられた正門です。垂木鼻、拳鼻、棧唐戸という部分や柱のあちらこちらに楔という金具の跡があって、きらびやかな建物だったと想像することができます。国の重要文化財に指定されています。



行った日



しらくにさんこうしやうじ
白国山高松寺

寛元2年（1244）、白国の政所にいた白国弾正左衛門尉宗直が建てたお寺です。聖観世音菩薩がまつられています。土地を支配している人が入れかわったりしてお寺の力が弱くなったころもありましたが、延宝4年（1676）に快山法師というお坊さんによってもう一度建て直されました。



行った日



しらくにじんじや
白国神社

播磨四の宮とよばれる神社です。まつられているのは神吾田津日賣命です。阿屠武命の妻の高富媛がお産で苦しんでいた時、神吾田津日賣命をおまつりしてお祈りをしたら無事に赤ちゃんが生まれたことから、この神社をつくりました。安産の神さまとして有名です。



行った日



12 増位地区



しらべたこと、わかったことを書いてみよう!



豊かな自然が残る増位山には、随願寺というお寺があります。ここには国や県の文化財がたくさんあります。どんなものがあるのが調べてみましょう。



- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り
- 伝統行事
- 美術品
- 伝統芸能など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

ずいがんじ かいざんどう
随願寺 開山堂

承応3年（1654）に建てられました。市の文化財に指定されている行基菩薩坐像をおまつりしています。随願寺に今も残っている建物の中で一番古いものです。国の重要文化財に指定されています。

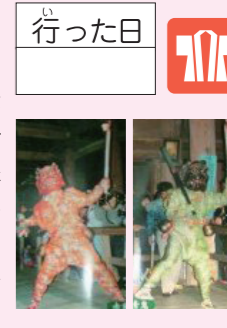


行った日



ずいがんじ しゆしやうえついなしき
随願寺 修正会追儺式

修正会は、世の中が平和で作物が豊かに実るよう願って行われる仏教の行事です。追儺式はそのしめくくりの行事です。本堂の中で、薬師如来の生まれかわりの「空鬼」、御幣という道具を持った「子鬼」、毘沙門天の生まれかわりの「赤鬼」、不動明王の生まれかわりの「青鬼」が鬼踊りを踊ります。毎年2月11日に行われています。

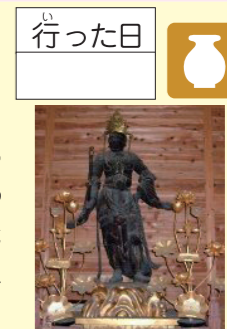


行った日



ずいがんじ ひしゃもんてんりやうぞう
随願寺 毘沙門天立像

平安時代につくられた木でできた仏像です。仏像のそれぞれの部分ごととって今にも動き出しそうです。明治34年（1901）に昔の国宝になり、昭和25年（1950）に国の重要文化財に指定されました。ふだんは収蔵庫におかれていて、特別な時にだけ公開されます。



行った日



ずいがんじ ほんどう
随願寺 本堂

今の本堂は元禄5年（1692）に姫路城の殿さま神原忠次が建て直したものです。県の重要文化財に指定されている薬師如来坐像をおまつりしています。天井に描かれた「天人」、「龍」、「鳳凰」は、狩野探幽（1602~74）という江戸時代の有名な画家が描いたといわれています。



行った日



ます いざんずいがんじ
増位山随願寺

播磨地方を代表する天台宗のお寺です。聖徳太子の指示によって、高麗という国から来た慧便というお坊さんが開いたと伝わっています。天平年間（729~749）に行基というお坊さんが復興し、山の上には36もお堂がありました。天正元年（1573）に別所長治が攻めてきて、焼けてなくなりましたが、天正14年（1586）に羽柴秀吉がもう一度建て直しました。



行った日

